

中小企業の業況は、前期に比べると悪化しつつある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成24年7～9月期の実績と平成24年10～12月期見通しについての調査結果（回答率86%）をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

業況DI値について、前年同月の今期（平成24年7～9月）の状況を集計したところ、業況判断DIはマイナスで推移しており、前期と比較して悪化の動きが見られた。

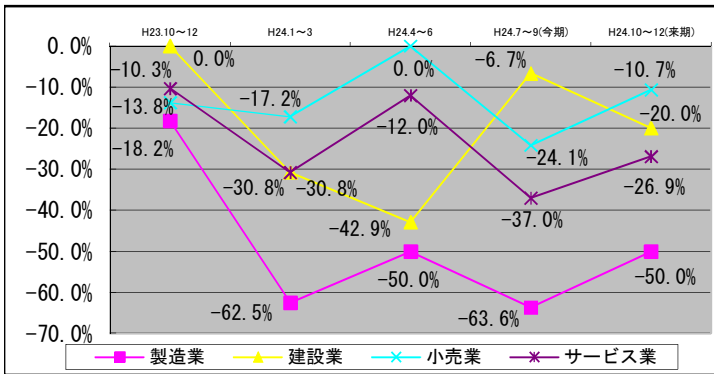
全業種のDI値に見る業況判断は、製造業：▲50%→▲64%、建設業：▲43%→▲7%、小売業：0%→▲24%、サービス業：▲12%→▲37%となった。小売、サービス業で20ポイント以上悪化しており、製造業は前期同様DI値がマイナス50ポイント以上と悪い。建設業で短期的にDI値改善が見られた。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の16%、来期設備投資を計画する見通しである企業は14.6%。今期は車両運搬具と設備機械、来期は車両運搬具と付帯施設、OA機器へ計画動向が見られた。また、今期の経営問題では、前期に引き続いて需要の停滞が上位に挙げられている。

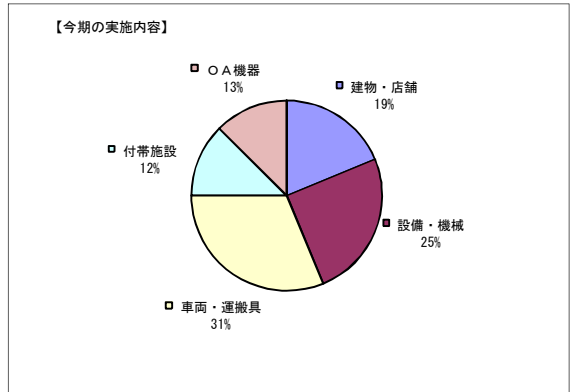
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-31%	↘	-22%	↘	-24%	↘	10%	↘	-32%	↘	-5%	↘
製造業	-64%	↘	-64%	↘	-50%	→	45%	↘	-55%	↘	-11%	↘
建設業	-7%	↗	13%	↗	-13%	↗	13%	↘	-31%	↗	0%	↘
小売業	-24%	↘	-25%	↘	-31%	↘	0%	↘	-30%	↘	-4%	↗
サービス業	-37%	↘	-22%	↘	-12%	↘	4%	↗	-30%	↘	-8%	↘

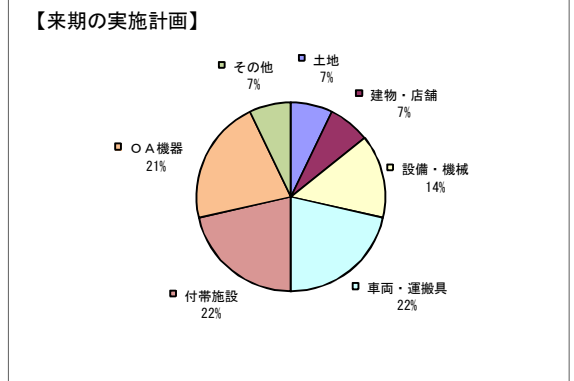
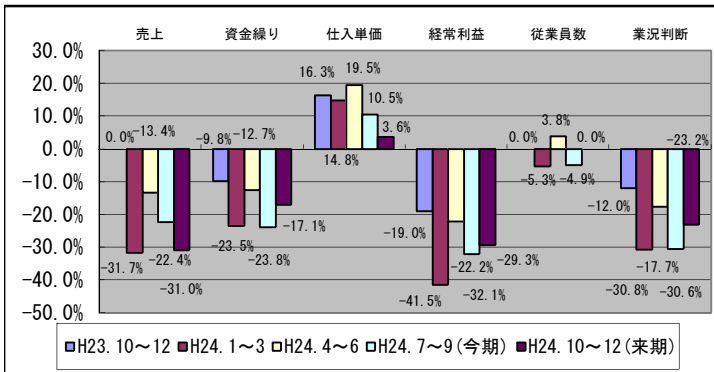
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



◆経営上の問題点

	製造業		建設業		小売業		サービス業	
1位	需要の停滞	27.6%	民間需要の停滞	26.8%	需要の停滞	22.5%	利用者ニーズの変化への対応	20.0%
2位	製品(加工)単価の低下・上昇難	20.7%	請負単価の低下・上昇難	24.4%	消費者ニーズの変化への対応	15.5%	需要の停滞	18.5%
3位	原材料価格の上昇	17.2%	取引条件の悪化・熟練技術者の確保難・官公需要の停滞	7.3%	購買力の他地域への流出	14.1%	店舗施設の狭隘・老朽化	12.3%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。